

「教会の幻を共有するために」(2021. 3. 21)

「あなたがたにまで伝えられたこの福音は、世界中至るところでそうであるように、あなたがたのところでも、神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成長しています。」

(コロサイ 1:6)

先週の礼拝後、私たちは第2回教会懇談会を開き、新年度の教会が掲げるべき幻を確かにするため、各自の心に湧き起っていることを自由闊達に話し合った。詳しくは別紙の懇談会報告を読んでいただきたいが、牧師として新年度の方針について、改めて述べたい。これまで4年間の年度目標は、「教会を美しくよう!」「主にあって手をつなごう!」「祈りの家と呼ばれる教会に!」「主に向かって賛美する教会」であった。新年度はこれらのことを覚えながらも新たに、「福音の恵みを真に悟り、成長する教会に!」を掲げた。

実は先日、上掲のみ言葉が響いてきた。福音が実を結び成長したのは、神の恵みを聞いて真に悟った日から、しかも、世界中至るところでそうである!このようにパウロは述べる。私はこのみ言葉に導かれて、コロナ禍で外に向けての活動が制限されている時こそ、逆に私たちが拠って立っている福音という土壤に、根をさらに下に下へと深く張り巡らし、その恵みを真に理解し悟るチャンスとしたい、そのような思いが湧いてきたのである。



そこで、具体的に4つのことを提案した。一つは、主の祈り・使徒信条・十戒の3要文を説教の中で取り上げる。現在は教団の教会暦に従っているが、3要文からの主題説教を第1聖日にする。二つ目はオリーブの会でのDVD視聴。偶数月の礼拝後30分間に一人の信仰者から学びたい。年6回の予定。三つ目は信仰の励みになる映画鑑賞。木曜日午前の聖書の学びで、特に第5木曜日、10時から12時までの2時間、年4回ほどである。四つ目は教会員全員が何らかの役割を分担する。各長老の下に属し、その働きのために祈り、奉仕する。そのことを通して、各長老を中心に会員の横の繋がりを深めたい。

なお、教会は、時が良くても悪くても、全世界に行って福音を宣べ伝える使命を担っている。それゆえ、コロナ感染状況にもよるが、新年度も基本的には、ゴスペル賛美夕礼拝・賛美講習会・イブ礼拝・ミニかまくらなど、できればチラシやFMなど用いて外に向けてもアピールし実施したい。神の恵みに根差し、伝道に励む1年にしたいですね!